

女性活躍のロールモデル目指す

最前線で働く姿を YouTubeで紹介

「この人に任せたら大丈夫だと思われる人に」「憧れられる現場監督に」「女性が働きやすい雰囲気」……。きらめくまなざしで仕事への熱い思いを語る女性社員たち。イチケンは現場や設計部門で活躍する女性社員を紹介する動画を同社のYouTubeチャンネルで13日から公開する。採用活動など学生をターゲットとした担い手の確保に向けた試みだ。構想やシナリオ作成、打ち合わせ、インタビューも広報担当の女性社員が全て手掛けることで、自然な表情を引き出している。動画制作の裏側をのぞいてみた。



イチケン

YouTube企画の仕掛け人は、手した。経営企画室課長の清水麻衣子さん。同社が力を入れているSDG（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・企業統治）といった観点からさまざまな取り組みを進める中で、「建設業は男性の仕事である」というイメージを払拭していきたい」と考え、制作に着

「建設業は男性」イメージ払拭

それぞれが働いている現場と職場を訪問し、仕事の内容や建設業を自主的な目標を従業員一人ひとりが設定した「SDGs取組宣言」を表明するムービーも公開。ターゲットとする若い世代が10分以上

など長い時間の動画を敬遠する傾向などを考慮し、全編を通して5分程度にまとめるなど随所にこだわりを見せる。

取材の聞き手には同室の山田百那さんを抜てきした。異業種から同社に転職して1年目だが、堂々としたインタビューぶりは庄巻だ。「いま建設業界で徐々に女性



仕掛け人の清水さん（左）と聞き手の山田さん



東京支店店舗建設部一部の伊藤千紘さん



東京支店店舗建設部二部の山口咲子さん



技術本部設計部一部の下田玲奈さん

が増えてきている中で、当社でも施工管理や設計、現場のサポートなどで活躍している。女性ならではの感性が求められるシーンもあり、動画を見て建設業に興味や関心を持ってもらえれば」と担い手の確保につながることに期待を寄せる。

清水さんは撮影時を振り返って、「すごく活気があり、職人さんたちと積極的にやりとりするななど元気に明るく頑張っていた。研修での交流はもちろん、プライベートでも遊びに行くなど同期同士での絆の強さも伝わってきた」と話す。「3人が女性活躍のロールモデルになってほしい」とも語り、「バックアップできる仕事をしていきたい」と力を込める。

同社では現在、女性社員の意見交換会を年数回開催し、問題点を洗い出している。「例えば、子どもを持ちながら現場でどうやって働いていくかといった悩みや、子どもの発熱時でも寝ている間であれば在宅で仕事ができるがテレワークの環境が十分でないなどの課題、現場と内勤のギャップなど年代を問わず、さまざまな意見が交わされている」と清水さんは説明する。挙げた課題は社長直轄の組織などを通じて経営に伝達し、改善へとつなげている。

来年で創立95周年を迎えるイチケン。清水さんは今回の動画に続くSDGsに関連させたさまざまなアイデアの検討を進めていると明かし、「95周年の1回きりではなく、100周年の5年後に続けられるような企画にしていきたい」と先を見据えた取り組みを展開していく。



本日から公開するイチケンのYouTubeチャンネルはこちらから

